

清々しい挨拶・心地よい環境・活気のある学校をめざして

～We Love AKENO 『～信頼と誇り～』

……ワンランクアップの学校づくり……

平成30年度 学校スローガン

ゼロ ゼロ ワン
「事故 0 ・ いじめ 0 ・ 1 ワンランクアップ」

1. 学校教育目標

◎人間性豊かで、知性にあふれ、心身ともにたくましい 実践力のある生徒の育成

(教育目標の見解)

- ◇『人間性豊かで』とは、人格完成の中核となるもので、人権に関する確かな認識や自他の大切さを認めることができる人権感覚、おもいやり・豊かな人間関係を構築すること
- ◇『知性にあふれ』とは、自ら学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力、基礎的・基本的な知識・技能を習得させること
- ◇『心身ともにたくましい実践力のある生徒』とは、自分なりの願いを持ち、その実現のために先を見通し、意欲的に取り組む強い意志と体力を備えた生徒ということ

【校訓】協 調＝思いやりのある生徒

自 主＝先を見通し、進んで心身を鍛える生徒

思 考＝目標を持ち、計画を立て解決に努力する生徒

2. 本校教育の目指す姿

◎めざす学校像～～～確かな信頼と明るく活気のある学校

「生徒にとって、魅力ある楽しい学校」「保護者にとって、子どもを通わせたい学校」でありたいと強く思う。そのためには、生徒一人一人の良さを生かし、多様な教育活動の中で、のびのびとその個性や能力を発揮させる場面を作り、生徒の心に充実感や存在感を味わわせることが大切である。そうすることによって、生徒は学校を誇りに思い、学校生活に生きがいを感じることができるようになる。

- ①生徒と教職員が信頼し合い、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成を図る学校
- ②愛情と信頼に満ち、人権が尊重される教育を実践する学校
- ③生徒・保護者・教職員・地域関係諸団体が信頼し合い協力し合う学校

◎めざす生徒像～～～すべての学びの場を大切にする生徒

- ①自ら学び、自ら考え、自分の目標に向かって努力する生徒
- ②自他の生命や人権を尊重し、互いに認め合い、励ましあい、協力できる生徒
- ③集団の一員としての自覚と豊かな心を持ち、主体的に活動することのできる生徒

◎めざす教職員像～～～『人にやさしく 己に厳しい』をモットーとする教師

- ①人権を尊重し、優しさと厳しさを兼ね備え、優れた指導力を持つ教師
- ②教育改革や学校の課題に主体的に対応できる教師

③保護者や地域等の諸機関との信頼関係を大切にし、連携・協力を努める教師

【学校の特色】

- (1) 明野団地誕生 50 年を迎え、さらなる発展を願い「母校愛と地域からの厚い信頼」
- (2) 自主・自立の精神に基づく「自治力の高い生徒を自ら創り上げる学校」
- (3) 文武両道の精神を尊ぶ「伝統的な校風による部活動の充実」
- (4) 主体的な学びを大切にする「質の高い学習指導の充実」
- (5) 明野は一つを大切にする「小中一貫教育の充実」
- (6) 地域社会との連携を大切にする「地域住民総出の教育の創生」

3. 本校の学校経営の基本的な理念

- ◎公教育の立場から、保護者や地域の信託にこたえ、また、教育目標の具現化に向けて教育課題を解決するために、人権尊重の精神を根底に据え、合理的な校務分掌を組織し、教師・生徒・保護者が互いに信頼し尊敬し合い、協働しながら、学校教育目標の具現化に努める。
- ◎学校生活全般を通して生徒同士の望ましい人間関係づくりを図るとともに、学習活動や行事・生徒会活動、部活動を通し、自己肯定感・自己有用感、集団への所属感・連帯感を育てる。
- ◎「開かれた学校」を目指し、家庭・地域社会のもつ教育機能や資源を十分に活用し、教育活動の充実・発展を図る。

4. 本校の学校経営の重点目標

①学習習慣の確立と学力・体力の向上～主体的に考え、深い学びを追及する授業改善～

- 授業のねらいを明確にし、教えあいやグループ学習の活用でわかる授業づくりに努める。
- 単元テストや小テスト等を定期的に行い、学力の向上を図る。
- 部活動の充実や体育の授業の効果的推進を図り、たくましい生徒の育成を図る。

②相手を思いやる心の育成～道徳教育、人権・同和教育の更なる充実～

- 互いの良さを認め合い、差別やいじめを許さない学校・学年・学級づくりに努める。～～教師と生徒、保護者、生徒相互の信頼関係を基盤とした指導～～
- 道徳の時間を要として学校教育活動全体を通じて道徳教育の充実に努める。
- 「共生」「思いやりの心」「自尊感情」などの大切さを育むための人権・同和教育の推進を図り、人権を尊重する学校文化の構築に努める。

③自主性・自治力の育成～「誇り」を持った自治力を育成する特別教育活動の充実～

- 文武両道の精神が確立された部活動の推進を図る。
- 自主的・自治的な態度と連帯感を高める生徒会活動の活性化を図る。
- 進路指導の充実を図り、キャリア教育の推進を図る。

5. 本校の具体的な指導方針

(1) 確かな学力の定着・向上に努める。

- 課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で、深い学びを重視したわかる授業の研究と実践に努める。
- わかる授業・魅力ある授業を進めるために、導入・展開・終末を意識した「1時間完結型授業」の一層の推進
- 「聴く・考える・伝える活動」を意図的に授業に取り入れ、言語活動の充実を図るとともに、生徒を主体とした参加型の授業を展開する。
- 学習規律の確立を目指し、生徒会と連携した「学習態度向上プロジェクト」をすべての授業で行い、望ましい学習態度の向上に努める。
- 基礎的・基本的内容の定着を目指す朝学習や補充学習の充実を図るなど、家庭・地域社会と一体となった取り組みを推進する。
- 授業におけるICTの効果的な活用を図ることで、生徒が主体的、意欲的に取り組む学習の場を充実する。
- 卒業レポートの作成を通じた書く力の育成及び探究的な学習の充実に努める。

(2) 豊かな心をはぐくむ教育活動の充実に努める

- 考え議論する「特別の教科 道徳」の時間の充実に努める。
- 自然体験や社会体験などの豊かな体験活動の推進を図る。
- 感動や自己有用感・自己効力感を味わい、集団への所属感や連帯意識を深める学校行事の充実に努める。

(3) 豊かな人間性や社会性をはぐくむ生徒指導の充実に努める

- 多面的・総合的な生徒理解を深めるために、教師と生徒、保護者との信頼関係を構築する。
- 望ましい人間関係づくりを進めるために集団指導と個別指導の充実に努める
- 不登校の未然防止と不登校生徒の学校復帰や社会的自立を促す支援を充実する。
- いじめの未然防止、早期発見、即時対応の推進を図る。

(4) 地域の実情に応じた小中一貫教育の推進に努める。

- 小中9年間を見通した系統的な学習や生活のきまりの徹底を図る。
- 計画的・系統的な合同研究授業・合同研修会や情報交換会の実施に努める。
- あらゆる機会を通じて家庭や地域社会への積極的な情報発信

(5) 人権尊重の精神をはぐくむ人権・同和教育の充実に努める。

- 人権尊重の基盤とした認め合い、支えあう温かい学級・学年づくりに努める。
- 授業や行事を通じた日常的な自尊感情の育成に務める。
- 部落差別をはじめとするあらゆる差別の解決に向けて、計画的・系統的な人権教育の充実に努める。

(6) 健やかな体の育成と健康・安全指導の充実に努める。

- 体力の向上に関する指導の充実に努める。

- 指導者と生徒及び保護者との信頼関係に基づいた適切な部活動の運営の確立
- 人間尊重、生命尊重の精神に基づき、生徒の発達段階を踏まえた性に関する指導の充実に努める。

(7) 一人一人の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の推進に努める。

- 自らの意志と責任で進路を選択する能力・態度が育成できるよう、教育活動全体を通して組織的・系統的な推進ができる校内体制を確立する。
- 地域社会との連携を深め、望ましい職業観や勤労観を育てる職場体験学習等を充実させる。

(8) 一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進に努める。

- 一人一人の障がいの状態や発達の段階に応じた合理的配慮の下、適切な教育を推進する。
- 外部機関等との緊密な連携により、相談活動を通じた計画的・組織的な指導を充実する。

(9) 開かれた学校づくり、信頼される学校づくりの推進に努める

- PTA、学校評議員会、各種団体等との連携・協力
- 学級・学年・学校便りの定期的発行、学校ホームページでの学校情報の積極的収集・発信に努める。
- PTAや学校評議員会などでのアンケートの実施と活用を図る。

(10) 潤いと落ち着きのある教育環境の整備・充実に努める。

- 無言清掃の取り組みを通して、環境整備に真剣に取り組む心の育成を図る。
- 望ましい学校環境に向けた、環境浄化の日常化を推進する。
- 「校歌斉唱」を積極的に促し、母校愛を育成する。

6、今年度の重点目標と方策

重点目標＝『自治力をはぐくむ』～ワンランク上の学校づくりを目指して～

※すべての学校教育活動を通して、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやりを高め、自らが進んで考え判断し、責任をもって誠実に実践できる力をはぐくむ。

(1) 開かれた学校、信頼される学校づくりの推進

- ①全ての教育活動において、人間性豊かで知性にあふれた生徒の育成を図るために、今日的教育課題の解決に対応した教育活動を推進する。
 - *学校経営計画表と連動した学校評価の充実や目標管理システムの効果的活用
 - *学校教育の基盤としての人権・同和教育の充実を図る。
- ②各種小委員会（小中一貫教育・特別支援教育・生徒指導・学習指導・学校保健など）の活性化に向けて、効率的な開催に心がけるとともに、必要に応じて関係諸機関と積極的に連携する。
 - *校務分掌の円滑な実施（6部制の導入と部長・係長の主体性）
 - *小中一貫教育の推進（目指す子供像の共有）
- ③学校や地域社会の特性を生かした地域に開かれ信頼された学校づくりに努める。

* 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）設立準備委員会の実施

（２）確かな学力の向上・定着

- ①生徒自らが主体的・対話的に深く学ぶ能力を高めるために、学びあいやグループ学習により、生徒自らが課題を解決する力をはぐくむ授業改善を推進する。
 - * 授業力の向上「大分っ子基礎学力アップ研究発表校」 9月21日（金）
- ②学力調査の結果を活用し、授業改善を図るとともに個に応じた学力の伸長を推進する。特に、学力不振の生徒に対して、補充学習の充実を図り学習支援を推進する。
 - * 3年全国学力調査(4/17) 2年県学力調査(4/24) 1年市学力調査(1/22)
 - * 教科指導マイスター派遣事業の有効活用(国2名、数3名、理3名、英3名)

（３）豊かな人間性や社会性をはぐくむ生活指導

- ①教職員の共通理解の下、積極的に家庭との連携を図り、組織的に基本的生活習慣の確立を図る。
 - * P T Aの活性化と連携の推進（中教研パトロール・、SNS三原則の実施）
- ②生徒の学校内外の行動観察・情報共有を怠らず、積極的に外部関係機関とも連携して対応する。
 - * 携帯電話の有効活用（市内全小中学校に配置）
 - * 学級集団検査（Hyper - QU）を年2回実施することで、多面的・多角的な生徒理解を図り、いじめ・不登校の未然防止。（中1～3）

（４）創意あふれ、特色ある特別活動

- ①生徒会活動を活性化し、地域行事の参加やボランティア活動の充実を図り、生徒の自主性や協調性、実践力を高め、自治力をはぐくむ。
 - * 生徒会規則の見直しと指導の一貫性
 - * ボランティア活動の有効性
- ②部活動の計画的・組織的な運営を図る。
 - * 平日・休日の練習時間などの適切な部活動の運営と指導を確立させる。

（５）一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育

- ①全教職員の共通理解に基づく指導体制の確立を図るとともに、子ども一人一人に応じた適切な教育的支援を充実する。
 - * 合理的配慮に関する教職員研修の実施（生徒名簿等に関する適切な扱いと諸帳簿等に対する積極的な理解）
 - * 子どもの実情に応じた指導を充実させるために、全教職員で緊密な情報交換を行うとともに、「エデュ・サポートおおいた」との緊密な連携を図り、適切な就学支援の充実を図る。
- ②生徒にとって、学校にとっての有効な手段としての情報発信についての充実を図る。
 - * 学年通信などの情報発信、地域メディアとの関係